中国の上場白酒メーカー、第3四半期の売上高が9.76％減

純利益が12.32％減少し、白酒業界全体の回復は2027年まで見込めないとの予測が強まった

2026年11月9日（月）



Sina Financeが掲載した証券会社・申万宏源の食品・飲料業界週報によると、中国の上場白酒メーカーは第3四半期に減収減益となり、業界全体の売上高は9.76％減、純利益は12.32％減だった。

この数字は、中国の主要な酒類ビジネスの一つが明確な減速局面にあることを示している。中国の伝統的な蒸留酒である白酒は、国内の飲料市場全体で長年、利益を支える中核であり、消費者需要を測る指標としても注目されてきた。申万宏源は、投資家の関心が業界最大手に移るなかでも、直近の四半期は販売と収益の両面で圧力が見られたと指摘した。

報告書によると、株式市場では大手企業が相対的に好調で、株価上昇をけん引する一方、バリュエー

ションも回復を続けるという構図が続いた。業界の業績が弱まるなかでも、投資家が上場企業の最大手を選好していることがうかがえる。報告書に示された申万宏源の見方では、市場の集中度は今後さらに高まる可能性がある。

証券会社はまた、短期的には業界の出荷量が減少すると予測した。この見通しは、メーカーが販売を維持しながら流通チャネルの在庫を管理するという難しい対応を迫られる可能性を示している。白酒の販売数量の伸びが鈍化すると、価格設定や販促、在庫水準に幅広く圧力がかかり、とりわけ上位企業以外でその影響が強まることがある。

申万宏源は、業界全体の回復は2027年まで見込めない可能性があるとした。現在の調整局面が、単一の決算期を大きく超えて続くことを示唆している。回復が遅れれば、業界は長期にわたる低成長に直面し、最有力ブランドと、小規模または効率性の低い競合企業との格差が一段と広がる可能性がある。

この報告書は、中国の株式市場にとどまらず、白酒が世界の酒類業界において戦略的な位置を占めている点でも重要だ。中国で売上高や利益の動向が弱まれば、巨大な酒類市場における需要、在庫負担、価格決定力を早期に把握する手がかりとなる。業界再編が続けば、競争や流通、投資家の見通しが飲料業界全体で変わる可能性がある。中国の高価格帯商品の消費動向に左右される他の酒類カテゴリーもその影響を受けうる。

投資家にとって報告書が示した対照は際立っている。業界全体の企業業績は第3四半期に悪化した一方、最大手はなお市場のパフォーマンスをけん引し、バリュエーションの回復を下支えした。この組み合わせはしばしば、需要の鈍化に耐え、価格を維持し、流通チャネルの在庫を管理できると見なされる企業へ資金が向かう、ディフェンシブな姿勢への転換を示す。

報告書は、すべての企業が一様に急落したとは捉えていない。むしろ、最大手が市場をけん引しているとの指摘は、企業規模や市場での地位がより重要となる、選別色の強い環境を示している。そうした状況では、業界全体の売上高が9.76％減、純利益が12.32％減となったことは、足元の業績悪化を示すだけでなく、業界の調整が進むなかで市場シェアと収益性の集中がどれほど速く進むかを示す指標でもある。